

状です。嘗利誘拐と何ら変わることはありません。

北朝鮮工作員を動かした「母の慈愛」

元北朝鮮の工作員で韓国への亡命者だった安明進氏アンミヨンジンという人物を読者は覚えていらっしゃるかと思います。覚醒剤所持で逮捕という不祥事を起こして以来、日本のメディアとも疎遠となつてしまましたが、彼が北朝鮮の日本人拉致に関する多くの証言をもたらしてくれたのもまぎれもない事実です。1997年（平成9年）3月、安氏は家族会の横田滋・早紀江さん夫妻と最初の面会を果たしますが、実はこのとき安氏は最後まで対面には及び腰だったそうです。朝鮮の工作機関の人間であり、いわば拉致問題の「加害者」にあたる自分がどの面を下げて「被害者」家族に会えればいいのかと彼なりに悩んだといいます。対面の席で、早紀江さんから「あなたも家族を北に残したままでお辛いでしょうに」と声をかけられた安氏はその場で号泣したそうです。そして拉致事件の解決のために、あらゆる協力を惜しまないと誓つたのでした。

横田夫人のこの言葉に、被害者が上、加害者が下だの、まして「被害者になれる」などといふ下衆な感情は一片もありません。人の母としての慈愛があるだけです。そして、拉致問題の解決を願うすべての国民の心根もまたそうであると信じています。



ガラムの家の『大地の女』像。奇麗な老婆のプロレス像だ。
恨みの文化は眞實表現は相性がよい。

第3章 愛と呪いの国

○呪いのワンドーランド、韓国のスピリチュアル文化

現代社会に生きるシャーマン文化

朝鮮半島は巫覡（シャーマニズム）と呪術の宝庫です。これを認識しておかないと韓国的精神文化を理解することはできません。

そもそも儒教の「儒」とはシャーマンを意味するのだといわれています。孔子の母がこの「儒」の家系の出身で、その仕事は現世と死者をつなぐ本来の巫女の他に、葬祭の一切を取り仕切る一種の葬儀屋さんのような役割も兼ねていました。墓を掘り起こして死者の身に着けている物を着服するのが彼女らの役得とされ、要するにあまり身分のよろしくない人たちと考えられます。孔子の父に関しては諸説ありますが、婚外子であつたことは確かで、たとえば、ギリシャ神殿の巫女がそうであつたように、「儒」も時に春をひさぐようなこともあつたかもしれません。

朝鮮半島に話を戻すと、新羅の第2代、南解王の尊称・次次雄は巫を表す方言ともいわれていますし、高麗時代には国立の巫祠^{サグン}が建てられ、王がこれを保護したという記録もあります。

韓国的一般的なシャーマンは巫堂^{ハング}といい、多くは女性ですが、数は少ないものの男巫堂（パ

クス、地方によってはファーレンイ）も存在します。男尊女卑の朝鮮社会にあって、巫堂は独特の女系・女権社会を維持しており、母から娘への世襲を基本として今日まで続いてきました。そのためか、巫夫（巫堂の婿）という言葉には日本でいうところの「髪結いの亭主」的な響きがあるといわれています。もつとも巫夫の名譽のために記しておけば、彼らは広大を兼ねることが多く、まつたくのヒモというわけではなかつたようです。広大とは仮面劇やパンソリ（謡曲）などを生業とする芸人で、彼らもシャーマニズムと密接な関わりをもつてています。巫堂は広大である亭主を顕でこき使うことも珍しくなかつたといいますから、祭祀の主役はやはり女性ということなのでしょう。巫夫も本来は巫堂の家系（サニ）からの婿入りがほとんどです。

巫堂自体は朝鮮の伝統的職業区分からすれば賤業であり、今もインテリ層などからは軽んじられる存在ですが、それでも21世紀の時代にもしぶとく生き残つていて庶民の生活の中に溶け込んでいます。法政大学教授の朴チヨンヒヨン氏によれば、現在、韓国国内で專業として登録されている巫堂だけで約10万人、無登録の者はその2～3倍いるそうです。ちなみにキリスト教の牧師は3～4万人程度といわれています。

顧客の主流は中高年の女性で、彼女らは、やれ先祖の口寄せだ、やれ失せ物探しだ、やれ悪魔祓いだ、病氣治しだ、あるいは占いだ、悩み相談だ、とさまざまな理由を抱えて巫堂のもとに出かけ、先祖の靈やさまざまな神を降ろしてもらい、一時の心の安定を得て帰っていくのです。アメリカ人、特にNYなどの都市部のインテリ層は歯医者に通うような感覚で気軽に精神

分析医に通うといいます。カトリックにおける懺悔部屋の役割を精神分析医が担っているといふ見方もありますが、韓国の庶民にとってのそれがシャーマンなのです。

濟州島出身の吳善花氏は子供のころ、地元の巫堂のおばさんに可愛がられ、覚えたての日本語の単語を並べると頭を撫でられたそうです。その巫堂のおばさんもよき日本時代を知る一人だったのかもしれません。海に囲まれた濟州島は巫俗信仰が盛んな土地柄で、海難事故の死者を冥界に送り成仏させるのは、巫堂の重要な役割でもあります。濟州島では巫堂を神房（シンバン）と呼び、他の土地に比べ、男性巫堂の比率が高いことも特徴のひとつです。

ソウルのような大都市でも、一歩裏道に入ると巫堂の印である「卍」の看板を自然に目にすることができます。中には一階が駄菓子屋で、その駄菓子屋のおばさんが二階の部屋で巫堂を行なうといった、兼業型も珍しくありません。「卍」の印は都市生活と冥界をつなぐ「どこでもドア」といっていいでしょう。

閔妃の寵愛を受けた真靈君

巫堂の奉じる神仏は山の神や龍王神といった自然神の他に、華人の守り本尊である三国志の英雄・閔羽、あるいは帝釈や阿弥陀といった仏教色の強いものなど多種多彩です。仏教を徹底弾

圧してきた李朝時代においても、巫堂を通してこれらの仏格への信仰が民衆に受け継がれていたことがわかりります。

色好みの暴君で知られる李朝10代の燕山君は仏教の弾圧者の一人でしたが、巫堂に関する記録も残っています。色好みの暴君で知られる李朝10代の燕山君は仏教の弾圧者の一人でしたが、巫堂に関する記録も残っています。

また、あの悪名高い閔妃の巫堂好きはつとに知られています。

『閔妃は王子拓（但馬註・のちの純宗）を世子として冊封するために莫大な資金を費やした。そのうえ、閔妃は世子の健康と王室の安寧を祈るために、「巫堂ノリ」を毎日行なわせた。「巫堂ノリ」は巫女（シャーマン）たちが狂ったように踊り、祈る呪術である。そのかたわら、金剛山の1万2000の峰ごとに、一峰あたり1000両の現金と、1石の米と1疋の織物を寄進した。つまり、合計して1200万両の現金と、1万2000石の白米、織物1万2000疋を布施した。当時の国家の財政状態は、150万両、米20万石、織布2000疋を備蓄していたにすぎなかつたから、閔妃が金剛山に供養した額は、国庫の6倍以上に当たるもので、どういふ耐えうるものでなかつた。』（崔基鎬著『韓国堕落の2000年史』祥伝社）

『親日派のための弁明』（草思社）の著書で知られる金完燮氏も、閔妃はその存命中、いつも宮中に巫堂を呼び入れ、儀式がない日ではなく、腕のいい占い師には即座に絹100疋とカネ一

万両を渡すなど、国庫を湯水のように使つたと記しています。〔SAPIO〕2003年2月

26日号)

迷信狂いの閔妃の寵愛を得て、王族や高臣にのみ与えられる称号^{II}君号を授かり政治的な実力者にまでなった巫堂もいます。真靈君^{シンヨンクン}です。1882年、宿敵^{デウオングン}・大院君に扇動された守旧派軍隊による軍事クー・デター（壬午事変）によって一時失脚した閔妃が、王宮に還れる日を複数の巫堂に予言させ、その中でみごとの心中させたのが彼女でした。これに感激した閔妃が彼女専用の閔帝廟（北廟）を建てそこに住まわせ、ことあるごとに政^{マツラシゴト}に口を出させました。道鏡、ラスプーチンは朝鮮にもいたのです。真靈君の北廟にいたる数里^{マツラシゴト}の道には、おびただしい供物と金銀財宝を積んだ荷車の列が毎日明け方から引きも切らず続いたといいます。真靈君に取り入つてあわよくば官位を授かるうという者たちの賄賂^{カイロ}の品々です。

世代交代する巫堂

巫堂には一般的な世襲型の他に巫病型があります。巫病型^{ヒョウキョウ}というのは、いわゆる突然神がかりを起こして巫堂のところへ運び込まれ、そのまま弟子入りしてしまうケースです。この場合、先輩巫堂と弟子は形式的な養女関係を結びます。神に呼ばれたという意味で召喚型、降神型ともいい、また世襲巫堂と区別するために生巫堂^{シンハサム}という呼び方もありました。

それにつけ、思い出すのは先年、美人巫堂として韓国で大いに話題になつた、イム・ジョン^{イムジョン}という若い女性です。彼女もまた、突然の神がかりを起こし巫堂入りしたわけですが、それ以前もサッカーの試合会場に露出度の高いコスチュームで出没するエロいサポーターとして一部では有名で、露出女（ノチュルニヨ）^{ノチュルニヨ}というありがたくないニックネームを頂戴しているお騒がせギャル（死語）でした。その巫堂修行の模様はYouTubeで見ることができます。頭から水を被つたり、李舜臣^{イ・スンソン}將軍の靈を降ろして重たい兜^{かぶと}を被つたままクルクル舞つたり、それなりに大変そうではありましたが、その甲斐あつてか（？）、露出女の転身劇は韓国の若者から概ね好意的に迎えられたようです。

前近代の遺物としてインテリ層からは白眼視されていた巫堂もここへ来て世代交代の様相を呈しているようで、韓国のTVでは時折り、美人巫堂、少女巫堂の特集が組まれたりしています。

もつとも、忙しい現代社会では、突然神がかりを起こしたといって、そなそな学業や家事を放擲^{ほうりき}して巫堂になるわけにもいきません。その場合、先輩巫女に頼んで「私はまだ学生（主婦）^{シヌ}なのでご期待に添えることができません」と神さまに言い訳してもらうのです。もちろん、先輩巫堂にいくばくかのお金を払うことになります。

韓国人の靈媒体質

この神がかりという現象、現代医学では一種の精神病（ヒステリー）として片付けられるようですが、私は韓国人全般にこの神がかり体質、靈媒体質のようなものがデフォルトで備わっているように思えなりません。日本でも、「一億総〇〇」というフレーズがありますが、韓国の人口5000万として、さしづめ「5千万総シャーマン」です。

デモや抗議活動で、興奮した韓国人が自分の指を切斷したり、割腹をしてみせたり、あるいはガソリン等を被つて焼身（焚身）してみせることがよくありますが、ああいった自傷行為を行なうのはある種のトランス状態にあることを意味します。韓国人は自ら脳内麻薬を大量分泌して忘我の境地に入る先天的能力に恵まれているようです。トランスと自傷は密接な関係があり、世界中のシャーマンに見ることができます。韓国の巫堂においてもトランスに入る過程で、刃の上を素足で歩いたり、剣を呑むなど自傷的行為に及ぶケースは珍しくありません。

また、抗議デモで日本の国鳥キジを殺して生肉を食らったり、生きたブタを日本に見立てて四肢を引っ張つて八つ裂きにしたりの行為も、原始宗教でよく見られる生贊の儀式とどこか相通じており、ハイチのブードゥー教などに多くの共通点を見出せるかもしれません。

『朝鮮人は本当に怒ると、正気を失うといえるかもしれない。自分の生命がどうなつてもいいといった状態になり、牙のある動物になつてしまふ。口のまわりにあぶくがたまり、いよいよ

獣めいた顔つきになる。遺憾なことだが、この怒りの衝動に我を忘れるといった悪癖は男だけの独占ではない。朝鮮の女はすさまじい凶暴さを發揮する。女は立ち上がりてひどい大声でわめくので、しまいには喉から声が出なくなり、つぎには猛烈に嘔吐する。』（ホーマー・ハルバート著『朝鮮滅亡』太平出版社）

これはいわゆる「火病」と呼ばれる症状のようですが、一種のトランス、あるいは憑依現象と捉えることも可能でしょう。日本では前近代まで、類似の症状を「狐憑き」「犬神憑き」など動物霊の憑依として処理されました。

「火病」という用語をネット上の俗語のように思われている読者もいるかも知れませんが、アメリカの精神医学会が正式認定している韓国民族特有の精神疾患（英名anger syndrome）で、韓国でも一般的に広く使われる呼称です。ただ、多少その意味には広狭があり、こうていう「火病」はやや広義のそれといえます。

韓国の就職ポータルサイト「ジョブコリア」が、男女会社員1923人を対象に行なったアンケート調査で「むかつく上司と後輩を見た時に表れる症状」という設問の回答で、「火病」が断トツ1位で35・2%。2位は「純度高い怒り」（16・5%）、3位は「頭痛」（14・5%）、4位以下は順に「メンタル崩壊」（10・5%）、「吐き気」（7・3%）、「心臓の高鳴り」（6・9%）となっています。（中央日報2013年4月2日付）2位以下の症状もほとんどが「火病」に類するもので、要するに韓国人は、人間関係でストレスが生じると、かなりの確率で

「火病」を発症するようです。

死者の支配する国

新渡戸稻造は朝鮮を「死者の支配する国」と評したといいます。生者よりも死者が大切にされる国、あるいは、もう少し突っ込んで、「葬式（葬礼）文化」の国という意味です。

2008年（平成20年）、放火によつて焼失したソウルの南大門跡で、シャーマンが集まり焼けた門のための葬礼が行われたニュースを見たとき、思い出したのが新渡戸のこの言葉でした。韓国人は生物でもない建造物まで葬儀の対象にするのか、よほど葬式が好きなのかなど、これは正直な感想です。日本でも針供養とか人形供養とか、無生物に対する供養は行われますが、それらとも意味合いを異にするように思えます。韓国人は供養・菩提というメンタルなものよりも、葬儀というセレモニー 자체に不思議な愛着をもつ、というのが私の見解です。

そういうえば、日本の首相や政治家の写真を遺影に見立てた抗議デモや、サッカーワ杯で相手チームの選手の写真を黒枠で飾つての応援（？）など韓国人の得意とするところです。2011年（平成23年）8月、鬱陵島の独島博物館を視察に出かけた稻田朋美氏ら日本の国会議員3人を金浦空港で待ち構えていたのは抗議団が用意した3つの棺おけでした。

また、朝鮮半島では「死」が露悪的なままで可視化されます。葬式で悲しみを代行するプロの「泣き女」が今でも存在しており、李朝時代の中民以上の家庭では、親の葬儀にどれくらいの数の泣き女を揃えるかがまた「孝」のバロメーターとされました。

北朝鮮の金日成、金正日の国葬の様子を思い浮かべてください。あの人民の派手な泣き狂いはまさしく、「泣き女」の伝統を表しています。独裁者の「死」の可視化であり、「のたうち回り」の聖なる儀式です。

常にどこからか「泣き女」の哀号が聞こえ、巫堂の口寄せが風によつて運ばれてくる、禿山と荒涼とした大地につつまでも続く白い装束のこれ見よがしな葬列……それが、新渡戸の見た朝鮮であったのでしょう。

命より大切な祭祀

さて、儒教を信奉する韓国人にとつてもっと大切なのは祖靈（祖先の靈）です。長男となれば、自分から遡つて4代前までのご先祖さまの祭祀（チエサ）を執り行うのが第一の務めということになります。

祭祀は日本の法事を大規模にしたものといえば、当たらずとも遠からずですが、ちょっとス

ケールが違います。親戚一堂が長男の家（本家）に集うので、料理の用意だけでやうに3日。その間、男は何もせず、嫁は台所に立ちっぱなしです。チエサ当日も男たちと同じテレビを見ることもありません。完全に男尊女卑の世界です。韓国人男性と結婚したいなどと夢を見る日本女性は、今のうちから覚悟しておいた方がいいでしょう。

何せ4代の両親ですから、多いときには年に5、6回もチエサがある計算になります。当然、散財の方も相当なものとなります。さすがに最近では都市部のチエサはだいぶ簡略化され、日本でも出来合いのおせち料理をスーパーで買ってすませるように、セット化されたチエサ料理をネットで注文するというケースも増えているようですが、伝統を重んじる老人にはやはり不評のようです。

これはまったくの余談ですが、韓国では葬儀やチエサで花やケバケバしい色彩の供物をそれこそ山のように盛ります。見ているだけで圧倒されてしまいそうです。韓国人は量とか数に独特の価値観をもっています。彼らの美意識の根底にあるのが量感です。

黄文雄氏によれば、漢字の「美」という字が「大きい羊」と書くことからもわかるように、中国人にとって美は「巨大さ」を意味しているのだそうです。なるほど、万里の長城も、西太后の離宮、頤和園も日本人の想像を絶する巨大さです。中国人にとっての美が大きさであるなら、韓国人にとっての美が数量なのです。床の間の一輪挿しを愛でる感覚は韓国にはありません。花を飾るならば視界にあふれるように飾るのが韓国式です。供物もピラミッドのように高

く盛つてこそ「孝」の証といえます。ミスコンテストなどでも、同じ顔をした整形美人が大量に居並ぶという（あくまで日本人から見て）珍現象も、この美＝量感という韓国人の独特の感性と無縁ではありません。つまり、美しい顔は一人より10人、10人より100人並んだ方が、より美しく見えるという感覚です。

処女まま死ぬと鬼神になる

チエサで祀られるのはあくまで族譜^{チヨソボ}に則った祖靈ですが、それ以外の、祀られることのない靈も当然無数にあって、朝鮮ではそれを鬼神^{ケインシン}（邪靈）と考えます。この鬼神を鎮め、慰めたり、時に人に憑いて悪さをする鬼神を追い払うのも、巫堂の大切な仕事のひとつです。ちなみに、巫堂のお祓い儀式を「クツ」といいます。

われわれが普段何げに使う「敬遠」という言葉、実は論語の「敬鬼神而遠之」（鬼神は敬うがこれを遠ざけるべし）の一節を語源としています。鬼神とは、敬わないと祟られるので敬うけれど近づきたくないもの——これにつきるというものです。

では、どんな靈が鬼神になるのか。もつともポピュラーなケースは未婚で死んだ女性の靈、処女鬼神です。男を知らず死んだ娘はそれだけ「恨」が強く鬼神になりやすいと考えられてい

ます。

朝鮮では山のふもとなどに大きな土饅頭をこしらえて墓にするのが慣わしですが、処女のまま死んだ娘の墓には土饅頭を盛ることはありません。われわれの感覚からすれば明らかに女性差別です。朝鮮でもさすがにそれだけでは可愛そだと思つたのか、こんな俗話が残つています。

『ある日、旅人が酔つ払つて路傍の墓に小便を引つ掛けた。その晩、旅人の枕元に美しい処女がみえて「私は今日、あなたのもつてている貴いものを見せていただくことができます」これで私の恨も溶けて、あの世に旅立つことができます」と言つて消えた。それ以後、娘の靈がたびたび旅人を救つた。娘の助言で彼は科挙にも及第し美しい妻もめどることもできた。以来、未婚女の墓に土が盛られなくなつたという。人が気付かず、小便をかけやすいように。』（『朝鮮の民話』岩崎美術社）

墓を盛らないのは処女靈を成仏させる機会（陽根を挿ませて恨を溶く）を増やす親切心なのだそうです。小便をかけた男性の方も出世するので万々歳ということになります。

また、処女の遺体を墓地には埋葬せず、墓地に続く道の途中に穴を掘り暗葬（一晩のうちにこつそり葬る）する風習もありました。

『その理由は、処女の靈魂が鬼神のなかでも怖ろしい部類に入る鬼神、孫閣氏^{ソンカッシ}にならないようするためである。異性を知らぬまま死んだ恨み、つまり絶ちがたい春情への未練は、多くの

人たちの足で踏まれることによって断ち切ることができると考えられていたのである。』（林鐘国著『ソウル城下に漢江は流れる』平凡社）

孫閣氏^{ソンカッシ}というのは処女の靈魂が祟つて化身した妖怪で、代々実家に祟り、主にその家の嫁入り前の娘を害するといいます。処女の遺体を道の辻にそつと埋葬するのは、多くの男に踏ませることによつて性交の代用行為としたようです。

村山智順の労作『朝鮮の鬼神』（1929年）にも、このことが紹介されています。村山は朝鮮総督府嘱託の学者で、智順^{チジョン}という珍しい名前からもわかるように僧籍にあつた人です。朝鮮の迷信、習俗、呪術、民間治療などに関する膨大な記録を残しています。

『年齒妙齡に達し未だ春を解せずして世を辞したる処女の魂が、悶々の情に堪えずして遂に悪鬼となり、代代其家に祟り併せて他人の処女を害するもの、又一説には処女のみに取憑く出歎式の惡鬼なりとの二説あれども確たる事は不明。鮮人は最も之を怖れ巫女は之を金儲の材料に使う、若し処女が病に罹れば直に巫女をして孫閣氏の祟りなりや否やを問わしめ、然りと云うときは祈禱を依頼し種種の供物をして巫女は鐘鼓を打ち賽舞す、而して孫閣氏が衣類に乗り移る様に其処女の衣服全部を屋内の空室に積み重ね昼夜祈祷を続行する、それにもかかわらず其処女病死せば之を埋葬する時には男子の衣服を着せ頭を下に足を上に倒して墓穴に葬り其上に沢山の刺のある木の枝を棺の周囲に埋める。或は道路の四達の十字交差点下に密かに埋却しそれでもと多数の男子に其上を踏ましめ、艶情を満足せしめ悪魔の出て来ぬ様にする。』（村山

処女に病あれば、「孫閣氏（鬼神）の祟り」だとして巫女（巫堂）が祈祷料をふんだくつたと村上は記しています。孫閣氏が乗り移れるように処女の衣類を開き部屋に積み重ねるとか、祈祷空しく処女が死んだ場合、男物の衣類を着せ逆立ちの形に埋葬し、棺の周りにトゲのある木の枝を埋めるなど興味深い記述も出てきますが、紙面の関係上、これ以上の考察は置いて、先を急ぎます。

死後婚礼を挙げた韓流女優

こういった処女靈（未婚靈）の有力な救済法が冥婚（死後婚礼）、つまり、死者のための結婚式です。韓国ではこの冥婚が現在でも、さかんとはいいませんが、決して奇異な儀式とは思われない程度によく行われています。

死後婚礼には二種類あって、死者と生者の結婚と男女ともに死者の結婚です。前者では、1982年11月、米ラスベガスのWBCライトヘビー級世界タイトルマッチで、14ラウンド壮絶KO負けのまま病院で死去した韓国人ボクサー・金得九^{キムトック}と婚約者・李英美氏^{イヨンミ}のケースが有名で、この二人の「結婚」は当時、韓国中の涙を誘いました。このとき、英美氏は3ヶ月の身重だったそうです。ちなみに、この金得九選手の死がきっかけとなり、これまで15ラウンド制で行われていたボクシングの世界タイトル戦が現在の12ラウンド制に改められました。

一般に冥婚といえば、後者を指しますが、こちらは、2007年2月、26歳の若さで自ら命を絶った女優・チヨン・ダビン（鄭多彬）のケースが記憶に生きしいかもしません。自殺の動機は明らかにされていませんが、移籍を巡って所属事務所との間にトラブルを抱えて悩んでいたともいわれます。他にも自殺の真相を巡っては生臭い噂もあり、いわゆる性上納（性接待）の問題も含めて、韓国芸能界の闇の部分が見え隠れする自殺劇だったのは確かなようです。そのダビンの死から4年後の2011年5月、彼女の母親のたつての希望で、02年に病死した5歳年上（享年は同じ26歳）の男性との冥婚（報道では靈魂結婚式）が執り行われました。ダビンの両親と青年の両親が友人同士ということもあって、話はスムーズに進んだことです（ダビンと青年の間に生前面識があつたかは報道からは不明）。

冥婚を取り持つのも当然、巫堂の仕事です。ダビンのケースのように、新郎（新婦）があらかじめ決まっている場合はよいとして、相手が決まっていない場合は巫堂が同じ年ごろの手ごろな新郎・新婦の靈を斡旋してカップリングします。もちろん、その場合は別途仲介料も派生するのでしよう。

「結婚式」には両班装束の男女の人形が使われ、床入れの儀式も行われます。花嫁花婿の合成写真も用意されますが、ダビンたちの場合、体に比べて合成した顔が大き過ぎて、昔の投稿工

口雑誌のアイコラのような出来になつてしまい、要らぬお節介とはいえ、もう少しどうにかならないのかと思いましたが、ダビンの母はただただ満足そうでした。ここいらへんがケンチャナヨ精神というところなのでしょう。二人の遺骨はひとつ墓所に埋葬されたとのことです。

ダビンの母親はこういった民俗信仰的なものに熱心な人らしく、2009年には、巫堂の『娘』の靈を口寄せしてもらい、それをケーブルTVで生中継させるということもやっています。そのとき、巫堂の口を借りて出た『ダビン』の言葉に他殺を連想させるものがあり、さすがにやり過ぎだと局に非難の電話が殺到しました。実はダビンが首を吊ったのは当時半同棲中のイ・ガンヒという俳優の部屋で、一時期、第一発見者である彼にあらぬ目が注がれていたこともあったそうです。そんなにしてみれば、元恋人の死後婚礼からして心境複雑なものがあつただろうにと、同じ男として同情せずにはいられませんが、わが子可愛やのダビンの母親は、イのことなど眼中にもないといった様子で、このあたりは、むしろスガスガしいほど韓国人です。

翻つてダビンの身として考えたら、死後に独り身では寂しかろうと冥婚を挙げてくれた母に感謝すべきなのか、あるいは好きでもない相手と結婚させられてありがた迷惑と考えるのか、ちょっと複雑なところかもしません。

韓国キリスト教の正体

韓国は人口の4分の1がキリスト教信者だといわれています。白人支配の長かつたフリリピングを別とすれば、アジア有数の準キリスト教国ということになります。ちなみに、人口の4分の1というのは李朝時代の奴婢階級と同じ割合です。韓国の全クリスチヤンのうち、カトリック1に対してプロテスタン諸派2で、後者の方が圧倒的といえます。

日本人は、カトリックの総本山としてバチカンがあるように、世界のどこかにプロテстанトの本部があるような誤解をしがちですが、プロテスタンでは、長老派とか、ルーテル派とか、大雜把な派があるだけです。特に韓国プロテstant教教会は完全なインデペンデント(単立)、個人商店のようなものと思つて相違ありません。

なぜ突然、キリスト教会の話になつたかといふと、韓国のキリスト教はキリスト教にはあらず、そのほとんどすべてが、土俗のシャーマニズムと融合した新興宗教ということを伝えたかったのです。20世紀初頭、日韓併合とともにやってきた近代化の波が、巫堂を始めとする土俗信仰の類を駆逐していく一方で、同時期に本格的に流入してきたキリスト教が大衆に根を下ろす過程においてそれらを吸収していくのがことの始まりです。巫堂を軽蔑する知識階層もキリスト教にはあまり抵抗がなかつたことも彼らの定着に一役買つたことでしょう。それは同時に、キリスト教でさえ土俗の信仰を取り込まなければ、韓国では生き残ることはできなかつた

ということを意味します。ちなみに前述したブードゥー教もアフリカ土俗のアニミズム信仰とフランスの宣教師によつてもたらされたキリスト教が混成した民間宗教です。

戦後巫堂文化は、朴軍事政権下の迷信撲滅政策で二度目の打撃を受けますが、これがまた新興キリスト教カルトを活性化させるきっかけとなりました。この時期誕生した代表的なカルト教では、世界基督教統一神靈協会（統一教会）やキリスト教福音宣教会（摂理）といったところがまず思い浮かぶかもしれません、その他にも趙鋪基牧師の汝矣島純福音教会、故・河用祚牧師のオンヌリ教会などもこの時期に誕生しています。いずれも問題のある教団です。

韓国キリスト教の特徴として、まず挙げられるは、徹底した現世利益の追求。職探し、縁談、社長になりたい、美人になりたい、さまざま世人的欲望を受け止めるのが韓国キリスト教会です。信者も信者で、Aの教会で「利益がない」と思えば、Bの教会の扉を叩き、そこでもダメならC教会に鞍替えするのは当たり前で、どの教会が「利益が大きい」か、信者同士そんな会話が普通に行われているといいます。そのため、大は自前の衛星放送局をもつオンヌリ教会から、小は地下鉄の構内でビラを配つて布教活動にいそしむ一家3人の零細教会まで「信者集め」のための企業努力を惜しません。いきおい、「今、信者になれば、」「利益5パーセント増量実施中！」の「利益セール」に終始します。5人の信者でスタートし、わずか23年間で世界に數十万の信者数（単立教会では世界最大）を誇るマンモス教団に成長した汝矣島教会（前出）の例もあります。

一つ目の特徴は、これこそ韓国キリスト教最大の特色といえますが、シャーマン信仰から引き継いだ「悪魔祓い」「心靈治療」などの降靈儀式です。韓国キリスト教では、貧困、病気、家庭不和などのあらゆる不幸を鬼神（悪魔）のせいであると教えます。教祖の力で鬼神を払う」とじよつて、人々は幸福になると説くのです。もともとプロテスタントにはペンテコステ（聖靈降臨）と呼ばれる一種の神（精靈）降ろしを行う宗派もあり、その意味で朝鮮の民俗信仰とも相性がよかつたのでしょう。

韓国キリスト教会で行われる降靈祈祷は、教祖と信者の一対一で行われるものからホールを借り切つて行われる数百～千人規模の集団トランスマで多種多様です。巫堂のクツでは、チャンゴ（太鼓）などの楽器がトランスマの誘導に使われますが、韓国教会ではオルガンやドラムスがこれに替わります。ためにYouTubeで「crazy korean church」あるいは「crazy korean Christians」を検索してみてください。集団で転げまわったり、泣いたり、お互いを平手打ちしたりといった信者の異常行動を収めた動画が多数UPされているはずです。それらを見ても韓国人の靈媒体質というものが納得できます。

よく韓国教会の牧師が信者の女性からわいせつ行為で訴えられ新聞ダネになりますが、それはたいがい、一体の病氣治しと称した悪魔祓いの過程で行われるのです。韓国でのわいせつ事件のほとんどは、牧師→信者、教師→生徒、上司→部下、あるいは（信じがたいことですが）まれに父親→実娘、といった立場の上下を利用したパワハラ型です。序列社会、肩書き社

会は性犯罪にも特色となつて現れています。

このような淫猥邪悪な牧師がなぜ存在しうるのかといえば、韓国では牧師の資格もカネで買うという感覚だからです。韓国MBCニュースが伝えるところによると、韓国国内に無許可のニセ神学校が400校あまりあり、牧師の資格の相場は平均500万ウォン（約45万円）、これまで1万人程度のナンチャツテ牧師が量産されているとのことです。牧師になつて信者を50人も集めれば、元手はラクに回収できます。アパートの一室、それも用意できなければ、時間借りで喫茶店の一角を借りて、すぐに「教会」の店開きというわけです。

震災は神の懲罰と主張する韓流牧師

韓国キリスト教の3つ目の特徴は、やはりというか「反日」です。

先にも名前の出てきた趙鏞基牧師は東日本大震災の直後、「今回、起こつた大地震は、日本人が神さまを遠ざけ偶像崇拝し続けていたための天の懲罰だ」と発言、さすがこれは日本のキリスト教関係者からも轟撃ひんげきを買いました。この趙牧師、日本ではあまり報じられませんが、土地問題、女性問題などその名は常にスキャンダルとともにあつたといわくつきの人物です。

震災・天罰論をぶつのはひとり趙牧師だけではありません。江南教会のキム・ソングアン牧師は「震災は日本人が800万個の偶像やおよろず（八百萬の神）を文字通り個数と解釈しています）と天皇を拝んでいるせいだ」と発言していますし、在米の左ヨンジン牧師も同様のことを主張し、「日本人の魂の救済のために宣教しなければいけない」と放言してはばかりません。

恐ろしいのはこういった偏狭的で偏執的な思想をもつた教会から送り出された宣教師たちが、どんどん日本に入り込み邪教を広めていることです。特に被災地でボランティアと称して被災者相手に布教したり、大学のキャンパスでは各種サークル（ゴスペル、韓国語会話、テコンドー等）に擬態して新入生を引き込んだり、あるいは韓流タレントを客寄せパンダに使つてイベント参加を呼びかけたり……それらはもうすでに始まっているのです。

韓国国内には、それこそ800万のカルト教会がひしめき信者の奪い合いをやつてている状態であり、新たな信者獲得のためにも国外へ向かうしかなく、そのもつとも有力なターゲットはキリスト教徒が総人口の1%といわれるキリスト教不毛の地・日本です。

韓流牧師は日本にキリスト教が根付かなかつたのは「神の声の届かぬ偶像崇拝の国だから」と説き、これを救済するためにも日本人を大量改宗させなければいけないと主張します。また布教に際しては「日本はかつて韓国に罪深いことをした。神に帰依して赦しを乞うときがきた」と日本人の贖罪感に訴えます。彼らの論理でいえば、韓国＝赦す国、日本＝赦しを乞う国、ということで、みごとに上下関係が成立するわけです。キリストの説く愛の思想とはまったく

無縁のゆすりたかり行為といえます。

明治以後、生活様式その他がこれほど西欧化した日本で、なぜキリスト教が広まらなかつたか。答えは簡単です。日本人が一神教のようなトップダウン型の宗教を必要としなかつただけです。そこが、韓国との大きな違いだと思います。それでいて、一般的な日本人は「キリスト教的なもの」が決して嫌いではありません。クリスチヤンでもないのにクリスマスを祝い、結婚式を教会で挙げたりするのが、何よりの証拠でしょう。最近ではコマーシャリズムに乗つてハロウインまで定着しそうな勢いです。むしろ、私に言わせれば、日本人はキリスト教をロマンチックに考え過ぎだと思います。本来が侵略の宗教なのです。西欧の植民地主義とキリスト教の布教は常にセットの関係にありました。南米のインディオをジェノサイドしたのはヨーロッパの宣教師だつたではありませんか。そして、これは何度も強調したいのですが、韓国系キリスト教は100%がカルトです。

風水と墓争い

韓国では風水信仰も盛んです。吳善花氏によれば、「韓国では、巫堂は紳士が大まじめに語る類のものではないが、風水は學問として捉えられている」とのことです。要するに巫堂は低級、風水師は高級ということになります。それもそのはず、青瓦台には大統領付きの風水師がいて、彼らの意見は政治にも一定の影響力をもつているとのことです。大統領が信奉するのですから、低級であろうはずがありません。

もつともその風水師たちも今ではすっかり世俗の垢にまみれしており、これはと思う土地を安く買って他人名義にしておいたり、あるいは土地の所有者と示し合わせて、風水思想にかぶれた資産家に明堂（風水的によい土地）だと吹き込んで、辺鄙な山地などを都市部の一等地などの値段で売りつけるなど不動産ビジネスにいそしむ者も少ないといいます。

風水にともなうトラブルでもつともよく知られたのは墳墓にまつわるもので。簡単にいえば、A家の墓のそばに新たにB家の墓が建ち、そのB家の墓がA家の墓の気脈を絶つていると判断した場合、A家がB家の墓を暴いてしまつたり、あるいはB家の墓に勝手に埋葬したりするのです。また、意図的に他家の墓の氣脈を絶つためにボイントを選んで墓を作るケースもあります。一般には明堂にある墓の上部に建て、下方へ流れる氣脈を遮断します。水道の流水を切つて自分のプール（墓）に水（氣）を溜め込むのです。これを「断脈」といいます。李朝時代はこの断脈を巡つて両家が血で血を洗う抗争に発展するということも珍しくありませんでした。また、禁じられた場所や他人の土地に無断で埋葬する「暗葬」などもよく行われたそうです。このときも他家との紛争を避けるために土を盛らず「平葬」にしたり、暗葬したのち共同墓地に空の棺を埋めてごまかす「空葬」「擬葬」など手の込んだ方法を取る者もいたといいま

す。

これら「犯葬」はいずれも嚴罰の対象でしたが、犯す者があとを絶たなかつたのは、明堂に祖先を葬ることがとにもかくにも「孝」に直結し、またそれによる気脈の流れが子孫の反映に関わるという風水信仰に基づく彼らの牢固な思想によるところです。自分の家の祖靈にさえ「孝」をつくせば、他家の祖靈のことなど知つたこつちやあないという、彼らのウリ・ナム観をよく表しているともいえます。

風水的マッカーシズム

キムヨンサム

歴代の大統領でとりわけ風水にこだわった人物といえば金泳三氏です。

金大統領は就任早々、当時博物館として使用されていた旧朝鮮総督府の府庁建物の解体を宣言しました。ところが、美的な問題から同建物の保存を訴える声も沸きあがり、これに苦慮した金政権は、総督府の建物は日帝によつて景福宮（王宮）の氣脈を塞ぐように建てられたという「日帝風水陰謀説」ともいうべき珍説を展開したのです。その一環として、総督府が測量のために各地に打ち込んだ鉄杭を「日帝が民族の氣脈を絶つことを目的に埋めたもの」と称して、これの除去活動を推進させます。全国で大真面目に鉄杭の掘り起こし作業が進められ、膨大な税金が費やされたのでした。

さすがに、この迷信めいた政策に批判の声もあつたようで、鉄杭除去事業開始から10年後の2005年、国民新報系のオンラインニュースKUKIニュース（10月4日付）がこう伝えています。

『独立記念館が最近、日帝が打ちこんだという長さ1・5mに達する金属杭を公開すると、單なる測量器具に過ぎないという反論の声が一部から出ている。従来、金属杭は朝鮮民族の武力制圧に限界を感じた日帝が我が国の戦意を失わせるための道具だったという、いわゆる「日帝断脈説」が主流だったが、これに対し「根拠のない風水的マッカーシズム」という批判も説得力を得ている。』

「風水的マッカーシズム」とはなかなか的を射た言葉ですが、命名者は歴史学者の李イファ博士です。李博士は「地図作成過程で山の尾根に金属杭を打ち込んで表示したものに過ぎない」と、鉄杭氣脈切斷説を一笑に付しています。

それはともかく「日帝が我が国の戦意を失わせるための道具」という解釈がまた面白い。日ごろ、戦争は悪、武力行使はよくないと教える日教組の先生方は、武力を使わず相手の戦意だけを喪失させる、日帝のこの平和的な戦術を称賛すべきではありませんか。憲法9条もいいですが、鉄杭をどんどん生産して世界中の紛争地域に打ち込むべきです。

そもそも、「氣脈断ち」なるものに関しては朝鮮の方が本場なのでした。

『智異山のふもとに実相寺という寺がある。この寺には「日本が榮えれば実相寺が滅び、日本が滅びれば実相寺が榮える」という言葉が伝えられている。日本に流れる地の氣を遮断するため、この地に寺を建てたという逸話もあり、鐘に刻まれた日本地図を連想させる模様を打つたびに、日本の富士山が1発殴られるそうだ。』（朝鮮日報2013年9月21日）

ここまでくると風水というより呪術の類と呼んでさしつかえないかと思います。キリスト教でも仏教でも、韓国に根を下ろすとたんにカルト性を帯びていくのが運命のようです。

ちなみに智異山は朝鮮南部の最高峰の靈山で、一説によれば巫堂の發祥の地とも言われています。この山に住んでいた法祐和尚という僧と聖母天王との間に生まれた8人の娘が最初の巫堂だというのです。

慰安婦少女像の呪術性

ソウルの日本大使館前に設置され、また韓国政府がグレンデール市を始め、全米に設置を画策する少女慰安婦像ですが、あれをstatue（彫像）と英訳するのは間違いで、土俗信仰的な崇拜物、一種のtotem（呪像）と認識するのがより本質に近いというのが私の意見です。

韓国とその息のかかった団体は、追悼碑や祈念碑の名目で日本にも多数の反日モニュメント

を建立してきました。私が軽く調べただけでも、慰安婦関係の碑が1箇所、朝鮮人徴用者や炭鉱労働者の追悼碑が9箇所、それに安重根、尹奉吉といったテロリストの碑が1箇所ずつ。その他、北海道猿払村でも朝鮮人強制労働者の追悼碑の建立を巡って、日韓の支援グループと反対派の間でひと悶着中（2014年12月現在）のようです。

もちろん、日本人であろうと朝鮮人であろうと亡くなつた方に哀悼の礼を捧げることに何の異論もありませんが、正直などころ、これらの碑には違和感というよりも嫌悪感しか覚えません。慰靈碑といえば、日本人は「安らかにお眠りください」と手を合わせる場所ですが、韓国人は違います。彼らは「あなたの恨みを忘れません」という念を込めて碑を建立するのです。つまりは呪物ということになります。丑の刻参りの藁人形と何ら変わりありません。しかも藁人形とは違い、千年、2千年、その地に残ることを前提にしています。

ちなみに、沖縄県の読谷村に建立された朝鮮人軍夫の碑は、その名も「恨の碑」です。碑にはめ込まれたりリーフがまたすさまじく、目隠しされ後ろ手に縛られた朝鮮人青年と彼の足元にすがる老母、そして日本兵というおどろおどろしい図柄になっています。もちろん、日本軍がこのようなやり方で軍夫を集めることはなく、まったくのファンタジーです。

気脈を絶つ鉄杭どころではありません、韓国人はこういった怨念の象徴を日本中に建て、かつまたアメリカに、そして世界中に建てようとしています。このような不健全で禍々しい物をこれ以上地球上に増やしてはならないのです。

○具象の王国

ナヌムの家の「大地の女」に思う

元慰安婦の収容施設、ナヌムの家の敷地内に「大地の女」というブロンズ像があります。その名の通り、大地から沸いて出たような老婆の全裸像（本章扉ページ参照）で、なんでも「しほんだ乳房は多くの子供を生み育てた母性の印」、「節くれだつた指は家事労働の苦労を表す」、「たるんだ腹は……」などの細かい説明があるそうです。どう見てもおどろおどろしいと、いう印象しか受けないこの像が、なぜ元慰安婦の収容施設に建てられなければいけないのか、首をかしげたくもなります。もしかして、この像は韓国における「理想のおばあさん」のイメージの立体化であり、本来ならこの像のような幸せな（？）老婆になるはずのハルモニの人生を狂わせてしまった「日帝に対する恨み」が込められているということなのでしょうか。何にしても、日本人には理解不能なセンスといえます。同施設の慰安婦歴史館の入り口にあるレリーフも獵奇的な雰囲気では負けていません。菊の花（いうまでもなく日本の天皇の象徴です）から5本の銃剣が突き出て女性の体を貫いているのです。

この像やレリーフの良し悪しをここで問うつもりはありません。ただ、これらの表現物が韓国人の美感や感性というものを知る上で、とても重要なヒントをくれたということを言いたいのです。韓国人というのは抽象よりも圧倒的に具象を好み、いわば具象の民族である——、「大地の女」を見て改めて思ったのはそれでした。

実際、韓国人と抽象芸術というものがイメージ的に今ひとつピンときません。よく言われるように韓国の精神文化を構成するもっとも重要な要素は「恨」の思想です。恨み、怒り、悲しみ、苦しみといったエモーションを可視化するのが韓国の芸術表現であり、いきおい肉感的、具象的になるのは仕方のないことなのかもしれません。ソウルの日本大使館前に建ち、現在韓国政府が在米韓国人社会と手を組んで全米に建立を目指んでいる慰安婦少女像はその典型といえましょう。さすがに「大地の女」ではアメリカ人の共感を得にくくということは韓国人にも理解ができたようですが。

空論に人生を費やした両班たち

李朝時代の支配階級である両班^{ヤンバン}は労働を蔑み、二人以上集まればひたすら空理空論に耽つていたといいます。空理空論などといふと、形而上的な物言いをもてあそぶ哲学者氣取りの隠遁者のような印象を受けますが、抽象概念的な思考は韓国人がもつとも苦手としたもので、議論

の中身といえば、王族の寡婦の喪は3年から5年か、といったおよそ形式主義的でかつ生産性のない話でした。A君は父親の葬式に50人の泣き女を呼び、B君は100人の泣き女を呼びました。どちらが親孝行でしょうか、というおよそ実のない論議です。しかも、この空疎極まりない論争に、勝ち負けがあり、負けた者は死刑にされたり、よくて流刑に処せられるというのですから、空論といえども命がけなのでした。現在の在日韓国人のルーツでもある濟州島は、そのような不毛な論争に疲れ身分を剥奪された両班たちが流されて来る土地だったのです。

漢字廃止の悲劇

1970年から段階を経て進んだ漢字廃止政策が、韓国人からさらに抽象的思考能力を奪つたと主張するのが、韓国出身の評論家・呉善花氏です。

そもそも韓国語の熟語の多くは、支那から来た漢語と併合時代に流入した日本式の新漢語を韓国語読みしたもので、特に学術用語や抽象語のほとんどは後者からの借用です。哲学（チヨルハク）、物理（ムルリ）、科学（クアハク）、思考（サゴ）、経済（キヨンヂエ）、調和（チヨフア）など数え上げたらキリがありません。北朝鮮の正式な国号は朝鮮民主主義人民共和国ですが、民主主義（ミンヂュチュウイ）も人民（インミン）も共和国（コンファグオク）も実は

日本語です。これらの熟語は漢字を前提に創作された言葉であるのはいうまでもありません。

そもそも表意文字である漢字をすべて表音文字で表すことの不便さは、想像をすればよくわかることで、現代のハングル表記のみの韓国語では「きしやのきしやがきしやできしゃする」式の同音異語への対処が事実上できません。前後の文脈で判断するしかないのです。会話ならば、ある程度それで間に合うかもしれませんのが、文書になると時に大きな混乱を招きます。2009年、韓国が誇るKTX（韓国版新幹線）の路線施工の過程で重大なミスが発生し工事が大幅に遅れるという事態が発生しました。設計書に指定された「防水」が「放水」と同音（バランス）で区別がつかず、本来防水加工すべき場所に吸水性の高い素材を使つたためでした。これなど、大事故に発展しなかつただけでも不幸中の幸いといえます。

韓国語では「水素」はそのまま韓国語読みで「スソ」ですが、呉善花氏は日本に来て、初めて「水素」の漢字表記を知り、なるほど「水の素」か、とその意味に納得されたそうです。蓋が蓋然性、帰納法、既視感……こういった難しそうな単語に初めて触れたときも、字面で何となく意味がつかめるというのも漢字文化の利点といえます。漢字はその一字だけでもかなりの情報量をもっています。仮の思想家ロラン・バルトが日本文化をエクリチュール（書き言葉）の文化だといったのは、漢字文化の国であるという意味もあるのかもしれません。日本文化は「読み解く文化」でもあるのです。

在米韓国人美術家の泥棒アート？

ちょっと古いのですが、面白い記事を見つけました。

『米国ニューヨークに留学していた時、国際的な広告公募展を総なめにした韓国人李ジェソク氏が今回はニューヨークの心臓部であるマンハッタンでぱっと目につく文具で作った広報物をあちこちに設置し、独島（竹島）を守護するためのゲリラ性キャンペーンを繰り広げて話題になつて。李さんは、マンハッタンのタイムズ・スクエアとエンパイア・ステートビルを中心先週からゲリラ性キャンペーンを大々的に進行している。李さんは他人の家に入つて盗みを働く後、垣を乗り越える日の丸で覆面をした人物を実物大で作つてゲリラ性に日夜を問わずあちこちに設置している。設置物の下端には「STOP ISLAND THEFT」という文章が書かれており、その横に「日本は歴史歪曲を通じてアジアの島々を盗もうとしている」という説明が付いている。』（聯合ニュース2008年7月25日付）

写真で見る李氏の「作品」は、黒装束に旭日旗の覆面、大きな袋を背負つた、今どきマンガの世界にもいらないだらうと思われるクラシック・スタイルの泥棒（人形）が、スパイダーマンよろしく広告塔の上を這つて。不法設置物であるため、「作品」は環境美化員とガードマンたちによつて置くそばから撤去されるのですが、李氏はなおもこのキャンペーンを続けると豪語していると記事にあります。

『本人は作品（立体）云々よりもそれを置くという行為に意味をもつてゐるようで、一種のストリート・アートのつもりなのでしょうが、それにしてもこのセンスには脱帽ならぬ脱力です。つくづく、韓国人は前衛アートに向いていない人たちなのだと痛感しました。

前衛芸術の本質はシユールとナンセンスにあると思います。主体と客体の境がないのです。もちろん、前衛作品にも批判精神はあります。しかし、批判に名を借りての、己を棚に上げた單なる他者への断罪になつてはいけません。たとえば、環境破壊に対する批判を作品に込めた場合、自分（作者本人）もまた環境破壊の一員であるという視点がなければ、悪くいえば偽善、よくいつても單なるお説教に終わつてしまします。もつといえど、環境破壊者もまた環境の一部なのだという巨視的な視点が必要です。

李氏の作品は、自分を正義、善人の位置に置き、竹島問題にからめて一方的、独善的に日本を非難しているのに過ぎないといえます。竹島問題に関してはハーゲの国際司法裁判所での決着を呼びかけている日本にとつては、筋違ひの嫌がらせ以外の何物でもなく、偽善以前の代物ですし、一般のアメリカ人とつて、この問題はNot my businessなイシューでしかありません。もはや、これは「作品」と呼べるものでもなく、『近所のちょっと「壊れた人」がバラ撒いて歩く、被害妄想を綴つた電波チラシの類と同じです。

李氏は他に、日本の教科書を拳銃型に裁断した「作品」を世界大手のオーディション・サイト・e-bayに出展したり、最近では日の丸を食いちぎる安倍晋三首相のコラージュ・ポスター

を制作、日本にバラ撒くと意気込んだりと、そのセンスは相変わらずのようです。

ブーメランとなつた乱射事件漫評

2007年4月、米バージニア工科大学で学生が銃を乱射、事件後自殺した容疑者本人を含め33人が亡くなるという痛ましい事件が起きました。死者数でいえば、教員生徒を含む15人が犠牲になつた1999年のコロンバイン高校銃乱射事件を超える史上最悪の学内乱射事件となりました。

この事件では、当初犯人が東洋系の学生であるらしいとだけ報道され詳細がまだ不明だつたこともあり、翌日の韓国の新聞漫画は、こぞつてアメリカの銃社会に対する「正義の剣」を振りかざしたものでした。たとえば、ソウル新聞のウェブ版の漫評ではブッシュ大統領がブリーフィングで「一発で33人：これでわが国の銃器技術の優秀性をもう一度…」と述べる場面と犯人らしきシルエットが銃を乱射する場面が描かれていました。他の漫評も似たようなもので、銃弾に蜂の巣にされ涙を流す自由の女神とか、やはり銃痕に血だらけになるアメリカ地図といった図柄で、いずれもアメリカ銃社会の病巣を皮肉る、といえば聞こえがいいが要は、良心の高みに立つて断罪するという姿勢がありありました。

日本の新聞界だけの不文律ではないと思いますが、通常、多数の死傷者が出了大事件、大事故の場合、最低数日は風刺漫画などの題材にするのを控えるのだそうです。まだ事件（事故）が生々しく、犠牲者とその家族の心情を慮つてという意味もありますが、真相がはつきりするまで触らないというのが報道する側の最低限のマナーであるからです。

果たしてか、バージニア工科大学の乱射の犯人がチヨ・スンヒという在米韓国人学生だったという第二報が届くと、韓国の新聞の狼狽ぶりは目もあてられぬものでした。ウェブ上の漫画はすべて削除、作品を描いた漫画家を休載処分にし、つまり漫画家にすべての責任を押し付けて知らぬ顔を決めて、その後は、「在米韓国人が肩身の狭い思いをしないか」、「韓国の国際的信用度が下がらないだろうか」といった、事件の被害者はさておいての、自分勝手な心配ばかりの論調に終始したのです。中には在米韓国人に、ほとぼりが冷めるまで日本人になりすませ、という呆れたアドバイス（？）を送る新聞さえありました。

すべては、自分を棚に上げ、他者を断罪することで道徳的優位に立とうとする韓国人の性癖が招いた喜劇です。

自分を棚に上げない、他人を批判するならその返り血をも甘んじて受けるという点で、第4章で詳しく触れますが、やはり金芝河氏の長編詩『糞氏物語』は充分「作品」となりえています。日本人のキーセン観光を李舜臣將軍の銅像の頭の上の脱糞に象徴させ、同胞の女を日本人相手に抱かせ外貨稼がなくてはならない自分たちの悲哀もまた茶化して見せたのです。

むろん、日本人にもチクリとした痛みを与えて。

金芝河氏の後継ともいえる芸術家が育たないということは、韓国にとつても実に不幸なことだと思います。それが、あの国の文化土壤に起因するのならば、なおのことでしょう。

前衛と相性がいい日本人

いわゆる前衛芸術運動というのは、第一次大戦前後の混乱期に、ヨーロッパを中心に起こったダダイズムを祖としています。時代からいえば、明治末から大正初年にあたります。

dadaとは馬を意味するフランスの幼児語で、ダッダッダ……という蹄^{ひづめ}の音が語源です。犬をワンワン、車をブーブーというのと変わりありません。詩人のトリスタン・ツアラが辞書の中で偶然見つけた語で、なるべく意味のない名前ということで以後自分たちの芸術運動の呼称に用いたといわれています。シュールリアリズムも各種ポップ・アートも60年代のアングラ運動ももとをたどれば、ここ（ダダ）に辿りつくのです。

こういったまったく新しい、言葉を変えるならキテツな芸術運動が海を渡って入ってきたとき、日本は案外冷静にこれを受け止め、すぐさま吸収してしまいました。大正、昭和初期のエログロナンセンスの下地はこうして出来上がったのです。

一方、第二次大戦中、日本の同盟国であったドイツのヒトラーは、前衛的な諸作品と作家たちを退廃芸術（家）と称して迫害追放しました。古典主義的な画学生上がりのヒトラーは、前衛が理解できなかつた、いや理解なぞしたくなかったのかもしれません。同じころ、日本では「少年俱楽部」連載の漫画『のらくろ』が全国の小国民のアイドルになつていきました。作者の田河水泡が前衛芸術集団マヴォの出身であることはよく知られています。

思えば、日本人にとって前衛芸術は相性のいいものだつたのです。たとえば、落語には『寿限無』や『頭山』のようにシュールやナンセンスの要素をもつた演目は少なくありません。浮世絵のいくつかの作品にマグリットやシャガールとの共通性を見出す海外の識者もいます。江戸時代という庶民文化の時代に、日本人はシュールもナンセンスもパロディもすべて体験済みだつたのです。

もつと時代を遡ることもできます。千利休の茶の湯は、世界最古のコンセプチュアル・アート、ハプニング・アートであるといつてもいいかもしれません。茶の湯は、臨済禪と深い関わりがありました。臨済宗の公案はシュールの極みといつていいでしょう。

前衛芸術は王朝からは生まれません。200年以上の庶民の時代を持っていたが、いなかつたか、この違いは、日本と韓国の文化を比べるにおいて実に重要なことだと思います。

とはいっても、韓国人に前衛芸術家が育ちにくいというのは、文化的な問題であつて決して民族的な問題ではありません。現に、現代アート界の鬼才といわれたナムジュン・パイクは韓

国人（国籍はアメリカ）です。よく在日韓国人と紹介されますが、彼のプロフィールには、戦

後、朝鮮戦争を逃れて両親とともに入国したとあります。現在、在日韓国朝鮮人と呼ばれる人たちの多くは戦後、日本に密入国した人たちで、強制連行などというものは無関係なのです。

パイク氏は1932年（昭和7年）生まれ。金芝河氏より9歳年長、存命なら80歳を超えたところです。東大卒業後、ドイツに留学、ここで音楽を学び、60年代をアメリカNYで過ごし才能を開花させています。有名な前衛芸術集団フルクサスのメンバーでもあり、ヨーロッパ・ボイスやオノ・ヨーコとも親交がありました。私も何度か展覧会を拝見していますが、粗大ゴミ置き場から拾ってきたTVのブラウン管受像機を並べたり重ねたりした一連の作品は、文明批判のようでもあり、未来もやがて過去となるという時間の無常を表しているようでもあります（そういえば、ブラウン管も既に過去の物となつた感があります）、単なるディスプレイのようでもあります。重要なのは、そこに作者の余計な自意識が入り込んでいないということです。

慰安婦像とパフォーマー

ソウルの日本大使館前に慰安婦少女像が建つて以来、銅像周辺はさまざまなパフォーマーの演舞場と化しました。最近でもおもちゃの手錠をはめ、チヨゴリ姿で銅像の足元でのたうつ踊りを披露した中年女性舞踏家がいましたが、私の目を大いに楽しませてくれたのはむしろ以下のこれです。

『白い米粒が白い韓服を着た女性の頭の上に落った。口に入れるべき米が頭の上に、それから地面に落ちて積もった。女性は米を避ける代わりにうつろな目で、またある時は怒りに満ちた目で日本大使館の前にはためく日の丸を凝視した。これは23日昼12時、ソウル日本大使館前でイ・ハユン（51）作家が公開した「外面そして声のない叫び」というタイトルのパフォーマンス内容だ。白い韓服は日帝勤労強制慰安婦被害者である。朝鮮の少女を、米が落ちるのは少女の労働が搾取されることを象徴する。（中略）イ作家は「日帝強制占領期、日本は私たちの主食である米を収奪し空腹に苦しんだ数多くの女性の労働力を絞り取つた」として「米一粒一粒が挺身隊ハルモニらの血と汗と涙であり、無関心と沈黙のうちに生を終えた数多くの挺身隊ハルモニらの魂」とパフォーマンスが象徴する内容を説明した。』（「民衆の声」2013年8月23日付）

写真を見ると、日の丸を模した赤い円陣の中に座った白衣のおばさんの頭上に、仲間（いざれも老年の女性）が米袋を構え、お米を降らしています。流行のようにザーザーと米を浴びながら、おばさんは日本大使館に向けて何かを叫んでいるようです。日本人の感覚からすれば、お米を粗末にするな、と言いたいところですが、これも「作品」だと言われば、こちらも黙るしかありません。その代わりに大いに笑つてやりました。このイ・ハユンというおばさんは

『現在、米国ニューヨークに居住し、米、オブジェにして韓民族の人生をパフォーマンス、会話設置物で表現する作家活動を行つてゐる』芸術家なのだそうです。

これがすべてを語つてゐると思います。韓国人における現代アートの限界です。

個人作品も「日本海」で撤去

ナムジュン・パイク氏とは一度だけ、展覧会の会場で立ち話程度の取り留めのないお話をさせてもらつたことがあります。ナムジュン・パイクという名前、漢字で書けば「白南準」で、白（ペク）の Park という英語表記がローマ字読みされ、日本ではなぜか「パイク」として定着したこと。もつともご本人は「パイク」というどこか無国籍な響きがお気に召しているかのようでもありました。

「韓民族の人生をパフォーマンス、会話設置物で表現する作家活動」といつた、韓国人にありがちな矮小的民族主義の呪縛を受けなかつたことは、パイク氏にも彼の作品にとつてもどれだけ幸福だったかと深く思うのです。

パイク氏は2006年（平成18年）物故されました。韓国では当然、「韓民族の優秀性」を世界に広めた芸術英雄ということで、死後何度も回顧展が開かれ、2008年にはソウル

龍仁市に白南準美術館がオープンしています。そのパイク氏の作品が彼の母国・韓国でどうのような扱いを受けているか、とても気になる記事を見つけました。

『韓国国立現代美術館に展示されていた韓国人現代美術家、故ナムジュン・パイク（白南準）氏の作品に「日本海」との表記があることがわかり、韓国が主張する「東海」と異なり不適切だとする指摘を受けた同館は25日、作品を撤去した。

同館によると、特別展に展示されていた「古地図Ⅱ」という作品。元々、フランス語で日本海と記されたアジアの古地図に同氏が筆を加え、作品化した。同館は「韓国の代表的作家の作品に日本海とあるのは問題」との観覧客の指摘を受け入れ、作品を入れ替えた。（『朝日新聞』2006年4月27日付）

自分たちの主張に都合が悪いという理由で、個人作品さえ隠ぺいしようとする。こういう精神が自ら芸術を遠ざけていると思うのは私だけでしょうか。

クライムとシン

英語には「罪」を意味する二種類の言葉があります。crime（クライム）とsin（シン）です。crimeは法律上の罪、犯罪を言います。sinは（主にキリスト教的な立場からの）宗教上、倫理上の罪のことです。背信、背徳、破戒、冒瀆、といったところでしょうか。

法律上の罪科というものは有限です。多くの場合、犯罪者の受ける刑は懲役刑ですが、よしんば死刑であっても、刑が執行されれば、彼の罪は法律上清算されたことになります。その意味でいえば、無期刑もまた有期刑なのです。しかし、sinという意味の罪は無限です。したがつて刑期の満了といったものはありません。強いていえば、神に赦されて初めてその者の罪が消えるのです。

百歩譲って、日韓併合を「罪」と仮定するとしても、日本人の知識人ならば、思想の左右を別にしてもその罪を当然 crime と捉えます。謝罪しそれ相当の賠償を行えば、和解はありうると思つてゐるのです。いわば、地上の論理です。ところが、韓国にとつて日本の罪は sin に他なりません。だから日本の首相や天皇が立場上、精一杯ともいえる「遺憾の意」を発表したところです。

ところで、背徳者が口先だけ「神よ、われを赦したまえ」と言つてゐるのに等しく、その証拠に懺悔部屋から出たとたん「これからは未来志向の日韓関係を」などと痕言を言つて赤い舌を出しているではないか、とこうなるのです。

では、韓国にとつて日本を裁く「神」は何かといえば、これに関して即答は難しいのですが、おそらく、民族の祖靈ということになるのでしょうか。韓国は祖靈を中心とした呪術社会なのです。日本の罪（sin）を裁ぐ=民族の祖靈の「恨」を溶かすことでもあります。おそらくそんな日は永遠にこないでしょう。未来永劫、「恨」の債権はついて回るのです。

なぜヒトラーが突出した悪とされるのか

最近、韓国が熱心なのは、戦前の日本とナチス・ドイツのイメージ同一化です。慰安婦問題をホロコーストと絡めて論じたり、自衛隊旗である旭日旗を「東洋のハーケンクロイツ」と言い放つたり、アメリカのユダヤ人団体を取り込んで日本批判させたり、あるいはお得意の「ドイツは過去に真摯に向き合い反省しているのに、同じ戦犯国の日本は…」などと頓珍漢なこととをさかんに言い出したりしているのは、ともかくにも国際社会に対し「西のナチス、東の大日本帝国」というイメージを定着させようという情報戦略に他ならないのです。

日本とナチスの同一化とは、即ち、極東軍事裁判（東京裁判）の宗教裁判化です。

これには少し説明が必要でしょう。近現代に限つたとしても、世界を見回して独裁者と呼ばれる人物はアドルフ・ヒトラー一人ではありません。スターリン、毛沢東、金日成、蒋介石、ポル・ポト、アミン、マルコス、チャウシエスク……それこそ綺羅星のごとき名前が浮かんできます。20世紀は戦争の世紀であると同時に独裁者の世紀でもあったのです。スターリンも毛沢東も単純に数字の上からいえば、ヒトラー以上のジエノサイドを行つてきました。ドイツ以外に他国に対して侵略戦争を仕掛けた国もいくつもありますし、自国の人民を銃口で弾圧した政権、政党も数多く地球上に存在しました（韓国もその一つです）。しかし、彼らがヒトラーほど悪しきまに語られることはまずありません。

安倍政権の政策を非難する人でも、安倍首相をファシストだ、ヒトラーのようだ、とは言いますが、スターリンや毛沢東には喰えません。ヒトラーやナチスには政治やイデオロギーを超えた、わかりやすい悪のイメージがつきまとっているのです。それこそ、プロレスの悪役から漫畫、アニメの世界にまでヒトラーとナチスのカリカチュアがあふれています。たとえば、『仮面ライダー』の悪の組織ショッカー、『宇宙戦艦ヤマト』のデスラー総統などがまさにそれです。

麻生副総理が憲法改正について、「急いではいけない」という意味の「反面教師として」「ナチスの手口に学べ」と発言しただけでマスコミは大騒ぎし、麻生氏は発言を撤回、謝罪を余儀なくさせます。

れましたが、これが「毛沢東主席の指導に学んで」でしたら、あれほどの問題になつていたでしょうか。日教組（日本教職者組合）の下部組織に日本教職員チュニエ思想研究会なるものがあり、これに所属している教職員は拉致問題が明らかになつた現在もなお北朝鮮の首領・金日成を礼賛してやみません。人殺しの独裁者の思想を礼賛するという意味で、この教師らと不才ナチの連中とどのような違いがあるというのか、無学な私に教えていただきたいのです。

スターイン、毛沢東とヒトラー（あるいはナチス）をイメージ的に隔てるものは何なのでしょうか。それは他の独裁者、暴君たちの罪がcrimeと認識されているのに対し、ヒトラーおよびナチス党の悪事が近現代史上、唯一sinの領域の罪とされているからに他なりません。つまり、罪の神格化です。他の独裁者が「悪人」なら、ヒトラーは「悪魔」になつてしまつたのです。悪魔は即ち神に敵対する者ですが、同時に人間心理のある部分を魅了する存在でもあります。たとえば、ナチスの各種意匠や制服のデザインに、今でも一定のマニアがいるのはご承知の通りです。美的に洗練されているというのも人を惹き付ける魅力のひとつであり、悪魔のゆえんであります。

親の罪は子が引き継ぐ

私は極東軍事裁判自体、勝者が敗者を裁いた」と一点をとつても裁判の名に値しない茶番劇であると思つていますが、その茶番裁判ですら crime としてのみ東條英機以下、いわゆるところの A 級戦犯 7 人を裁きました。悪法も法なりで、それが近代裁判である以上、crime を sin として裁くことはできません。そして、1951 年（昭和 26 年）9 月のサンフランシスコ講和条約で日本政府はその判決（judgement）を受け入れ、晴れて独立を取り戻したのです。あと、これは日本人でも知らない人が多いのですが、国際法上の慣習で、講和条約（平和条約）が発効して国家間の「戦争状態」が終結すれば、敵国による戦犯裁判の「判決」は効力を失うのです（アムネスティ条項）。したがつて対外的には既に戦犯は存在しないということになります。

韓国にとって戦後最大の痛恨事は、東京裁判において連合軍側に立ち日本を裁けなかつたことです（そもそもその資格はありません）。しかし、日本の罪を crime でなく sin であるとするならば、罪の解釈を無限に広げる」ことができます。そして彼らの最終的な目標は日韓併合自体を人類史上における最大の罪として日本を永遠に廃絶することです。東京裁判の宗教裁判化という意味はそこにあります。

もちろん、そんなことが可能ならば、世界中に植民地をもつていた歐州列強やアメリカの罪も改めて問われることになりかねませんから、国際社会が認めるわけがありません。ソノで、歴史上、例外的に sin を認知されたヒトラー（およびナチス・ドイツ）と日本の同一化が必要となつてくるのです。

キリスト教国であるドイツ人は、sin という概念も言葉の重さもよく理解していますから、早々にドイツ人とナチスを分離し、すべての罪（crime も含め）をナチスに押し付けることで国際社会へのカムバッケを果たしました。悪いのはすべてヒトラーであつて、多くの善良なドイツ民は騙されていたのだという理屈です。ところが、韓国にとって大日本帝国と戦後日本の区別はありません。大日本帝国の罪は日本国の罪であると考えます。親の罪はその子、孫が引き継ぐという韓国流儒教的な考え方がベースにあるのかもしれません。それどころか、こと日本に関しては、国家の罪と民族の罪の境界はないのです。

韓国＝ユダヤなのか？

日本＝ナチスとすると、韓国はポジション的にユダヤの立場を主張したいようで、現に在米韓国人による米ユダヤ団体へのアプローチに余念がありません。ユダヤと手を組むことで、対日独の被害者同盟のようなものを作り上げたいのでしょうか。

2013 年 8 月、ニューヨークの「ユダヤ伝統文化博物館」で KCSI (Korean

Christians for Shalom Israel) なる韓ユ友好イベントが行われましたが、これを仕切ったのは「韓国イスラエル聖書研究会」という団体で、その正体は韓国キリスト教「オンヌリ教会」の下部組織です。同教会の教祖、河用祚氏（故人）は教団の小冊子に「日本が大地震に見舞われたのは、神を知らぬサタンの国だから」と堂々と寄稿するほどの反日思想の持ち主です。日本でも有名な女優のチエ・ジウはこの広告塔としても知られ、彼女は教会の日本進出にも一役買っています。

2014年2月にはNYの「クイーンズ・コミュニティ・カレッジ・ホロコースト博物館」に慰安婦関係の常設展示館ができる、という発表がありました。建設費8万ドルのうち6万ドルを博物館側が、残り2万ドルを在米韓人会が負担するということです。こちらの方も恐ろしいほど工作が進んでいるという事実を認識せざるをえません。

韓国が自らをユダヤと同一化させることで、被害者という立場の絶対化、神聖化を図ろうという意図が見えます。聖被害者です。

しかし、私からいわせれば、韓国のやつていることは、煎じ詰めて行くともしろ、日本のユダヤ化ではないかとさえ思うのです。

繰り返しになりますが、戦後ドイツは、ドイツ国民とナチスを分離することで、国際社会にカムバックを果たしました。ところが、韓国にとっては、日本民族そのものが悪であり「恨」の対象であるから、この分離は成立しません。そして、日本は世界中から悪の民族として永遠

に排撃されるべきだと彼らは考えるのです。

歴史上、ここまで絶対悪とされ忌み嫌われた民族があつたでしょうか。ひとつだけ思い浮かぶのが、そう、ユダヤ民族です。

ナチスのホロコーストもその根底にはキリスト教社会の反ユダヤ思想がありました。日本の神道を軍国主義と結びつけ非難するリベラル知識人もなぜか、そのことには目をつぶるのが不思議でなりません。日本の国家神道など比べものにならないほど、人を殺しているのがキリスト教なのです。

ホロコースト（本来はギリシャ語で「焼きつくす」の意）という言葉を日本でも一般的に知らしめるきっかけとなつたのは、メリル・ストリープ主演のドラマ『ホロコースト』（1997年）でした。同ドラマの第1話に、幼い兄妹のこんな会話があつたのを記憶しています。

妹「なぜユダヤ人を嫌わなければいけないの？」

兄「キリストを殺したのがユダヤ人だからだよ」

では、そのキリストはユダヤ人ではないのかといつて当然の疑問はともかく、これがキリスト教徒によるユダヤ人迫害の、子供にも説明のつくもつともシンプルな「理由」なのです。救世主を殺す、これに勝る罪（sin）はなく、それゆえユダヤ人は2千年にわたる迫害を受け、世界を流浪しなければならなかつたと、21世紀の現在でもアメリカの一部のファンダメンタリスト（キリスト教原理主義者）は主張します。

私が朴槿恵大統領の「被害者と加害者の関係は千年経とうと変わらない」という言葉に禍々しさを覚えるのは、このキリスト教徒の反ユダヤ思想とどこか通じるものを感じるからかもしれません。

韓国人と一神教

韓国は人口の3分の1がキリスト教徒だといわれるアジア有数の準キリスト教国です。

ここまでかの国にキリスト教が根付いたのにはいくつかの理由が推測されます。ひとつ挙げるとすれば、一神教の教義体系が韓国人の気質と相性がよかつたということです。いうまでもなく、一神教はトップダウンの宗教です。神が人間を含む万物を作り、人間は神と契約し、神の命令に従うという教義は、自我は強いが、主体性に欠け、他律的で他罰的な韓国人の思考にはぴったりだったということです。一神教が本来、異教徒に対し徹底的に不寛容な態度を示してきたように、韓国人の意識に日本人という「異教徒」に対する不寛容で差別的な心理が、屈折した優越感とともに存在しています。さらに一神教特有の懲罰概念が、韓国人の「恨」を心地よく吸収するのです。

「東日本大震災は神が下した日本への罰」という主張をしてはばからぬ牧師が韓国には複数

いるという話を先に書きましたが、そればかりではありません、広島、長崎への原爆投下も日韓併合という罪への神の怒りと教える教会も決して珍しくないのです。韓流牧師によれば、広島も長崎も神の怒りに触れ、硫黄の火に焼かれたソドムとゴモラと何ら変わりがないことになります。

韓国人は何事も白黒つけたがります。正と邪、善と悪、上と下という、徹底した二元論に立つてているのです。その意味では曖昧を許しません。この二元論に、一神教的な懲罰思想が加わった結果、現代韓国知識人の思考はますます硬直し、不寛容で他罰的な対日観が形成されました。朴大統領の「被害者と加害者」論はこれのわかりやすいサンプルに他なりません。

一方、韓国人の目からすれば、日本人というのは何かにおいて曖昧あいまいを好み、原理原則をもたない無節操な民族に映るのでしょうか。日本人の思考は原則的に絶対を求めません。意外かと思われるかもしれませんのが、これは仏教の影響がもとにあります。

有名な般若心經の一節「色即是空・空即是空」は直訳すれば「形あるものは即ち実体がなく、実体なきものは即ち形あるもの」という意味です。さらに、形をなすあらゆるものは認識でしかなく、その認識も実体としては存在しない、と説くのです。これだけ聞くと、何とも狐につままれたような不思議な気分になりますが、こういう考え方には、絶対的な価値観は成立しにくいということはおわかりになられるかと思います。この、「すべてのものは実体がない」という、何ともぶつから棒な教えも日本人の「諦」とどこかつながっていると思ってなりません。実体

のないものに執着しても始まらないという諦観です。

また、臨済禪の世界では「仏に逢うては仏を殺し、祖に逢うては羅漢を殺し、父母に逢うては父母を殺し、親眷に逢うては親眷を殺し……」と、絶対と思われる存在をとりあえず否定しつくすことが悟りの道であるとさえ言い切るのです。

これは他の宗教、とりわけ一神教からは出でくることのない教えといえます。たとえば、「ゴッドに逢うてはゴッドを殺し、イエスに逢うてはイエスを殺し、精霊に逢うては精霊を殺し」などというクリスチヤンがいれば、その者は狂人と思われるでしょう。中世であつたら、間違いなく異端審問にかけられ火炙りは免れません。まさしくSB（背信）そのものです。

祖を殺し、父母を殺す——、李朝時代の頑迷な儒学者が聞けば、それだけで卒倒は必至です。こんな教えをありがたがる倭奴は禽獸にも劣る輩だというかもしれません、おあいにくさま、臨濟は唐の人です。

仏教的なものの考え方、キリスト教の教え、儒教的な価値観、それぞれに真理があり、優劣を語る愚はいたしませんが、日韓の思考の違いを語る上で、ベースとなる宗教観の違いを見ていくのは、それはそれで意味のあることかと思います。

第4章

反日韓国は日本が作った



『魔劍魔姫』 70



『清日戦争と女傑閔妃』 65



『色魔レーベル』 69



『風雲龍女』 64

「魔劍魔姫」から「魔劍」へ、変容する閔妃のイメージ。